

受講番号 19006 学校名 安芸桜ヶ丘高等学校 氏名 後田 麻衣

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 29名
 科目名 O C I 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 EXPRESSWAYS I

クラスの様子・特徴

商業系のクラスである。静かで大人しい生徒が多いクラスだが、何人かの活発な生徒がクラスを引っ張っている。英語に対する意欲にはばらつきがあるが、全体的には前向きに取り組む姿勢が見られる。

問題の確定

座学での取り組みは良いが、ペア活動が消極的である。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
座学による授業では、板書や問題を解くなどして熱心に取り組む。英語の歌を聴くのが好きな生徒もいて、リスニングにも挑戦したが良く聞き取れていた。ペア活動になると行動に移す生徒が少数であった。	生徒は、楽しく分かりやすい授業を求めている。英語に対しては、文法・発音・構文など全体的に難しいという印象を持っている。生徒が最も身に付けたいと思っている力は話す力である。	クラスの平均点は1学期中間89点、期末80点であった。範囲のあるテストについてはしっかりと勉強している生徒が多い。だが、テストの点数が他の生徒に比べ格段に低い生徒も数名いる。

リサーチ・クエスト

親しい友達とでしかペア活動が行われないクラスで、活発なペア活動が行われるにはどうしたら良いか。

仮説・実践・検証

仮説1 スピーキングテストを実施し、評価される機会を設ければ、必然的に英語を話さなければならない状況になるので、ペアになって意欲的に練習するのではないかと。	実践1 授業で学習した内容である、ファーストフード店でのダイアログと店のメニューをプリントしたワークシートを生徒に与えておく。生徒は予め自分の買う品物や支払い金額を準備しておく。テストでは、ALTが扮する店員とコミュニケーションを取りながら注文する。	検証1 スピーキングテストの待ち時間を利用して熱心に練習していた。これまで見た中で最も意欲的に取り組んでいた。テストでは、ほとんどの生徒が自分の伝えたいことが片言でも伝えることができた。また、何人かの生徒は笑顔でアイコンタクトを取りながら話すことができ、会話を楽しむ余裕もあった。生徒アンケートの反応は「良い経験になった」「面白かった」と前向きなものが多く、この活動は今後も継続して続けていこうと思った。
仮説2 生徒がペアの相手を自由に選ぶのではなく、ペアの相手を指定することにより、友人以外との活動に慣れてくるのではないかと。	実践2 これまでは自由にペア活動の相手を選ばせていたのを、隣の席同士でペアを組ませることにする。また、指定された5〜6人のグループ活動も試みる。	検証2 ペア活動では、相手とコミュニケーションを全く取ろうとしない生徒が多くいて、ペアを自由に選ばせていた時に比べると全体的に活気がなかった。グループ活動においても、一部の生徒が動いても全体が動かないために、結局グループさえ作ることができなかった。アンケートにおいても、ペアの相手は親しい友人を希望する生徒が多数であり、生徒の実態に合ったペアの相手選びを行った方が良いのではないかと感じた。
仮説3 色々な人と積極的にコミュニケーションを取る態度を身に付けるには、まず他人に関心を持つことから始める方が良いのではないかと。ゲームなど楽しみの要素がある活動を行うことによって、人とかかわりに慣れていき、コミュニケーションの取り方を学ぶことができるのではないかと。	実践3 全員参加型のゲームを授業のウォームアップに行う。ゲームの形態を、生徒全員対教員や2グループに分けた対抗戦など、できるだけ大人数でのグループに分けて、教員がリードして行う。また、個人対抗のゲームでも、ペアやグループで相談しながら行ってもよいと告げ、人と積極的にかかわることを促す。	検証3 教員のコントロールのもとで行われるゲームでは、ほとんどの生徒が積極的に参加していた。他人が発表するのをききちゃんと見たり聞いたりしておりコミュニケーション力も身に付いてきていると感じた。また、ゲームに限らず授業中に1度は「ペアやグループで集まって活動してよい」と指示を与えた。すると、自ら行動に移す生徒が以前より増え、全く活動しようとしなない生徒は以前より減った。

研究の成果

課題である「消極的なペア活動」は、スピーキングテストの実施によって最も活性化された。その効果もあって、普段の授業の中にペア活動が定着しつつある。「親しい友人以外とのペア活動」は、多少強引に試みても上手くいかず、クラス全体が誰とでも話ができる人間関係になっていないのではないかと感じた。そこで、ゲームなどの体験を通して楽しいという感情を共有し、仲間意識を作ること重視した。クラスの雰囲気も徐々に良くなっている。

今後の授業改善の課題

最初はペア活動という面だけを取り上げたつもりが、生徒の「やる気」や人間関係といった大きな課題に関わっていくことになり、なかなかすぐには結果が出なかった。だが、工夫して色々な方向からアプローチしていくうちに生徒の変化も少しずつではあるが見られるようになった。今後は、取り組みを継続し、長いスパンで生徒の変化を見ていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-35-2020

電子メール

#REF!